

平成 17 年（2005 年） 9 月那覇市議会定例会

代表質問発言通告書（2 日目）

平成 17 年 9 月 13 日（火）

割当時間（答弁を除く）

日 本 共 産 党	30 分
社 社 連 合	20 分
大 志 の 会	20 分
民 主 ク ラ ブ	15 分
自 民 ク ラ ブ	15 分
市 民 の 会	10 分

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
1	大 城 朝 助 (日本共産党)	1 国民保護法について 2 中学生の自衛隊体験学習について 3 那覇市伝統工芸館跡利用について	有事法制・「国民保護法」の具体化が地方自治体で進められている。しかし、国民保護法とは、アメリカが海外で引き起こす戦争に自衛隊を引き込み、日本が自動的に参戦するための仕組みのひとつである。悲慘な沖縄戦を体験した自治体として「国民保護計画」の作成は拒否すべきではないか (1) これまで何校で自衛隊体験学習が行われたか、年度別に答弁を求める (2) 憲法・教育基本法の立場、「沖縄戦の悲慘な体験と実相」に鑑みても中止すべきと思うが、部長及び教育長の見解を問う (1) 那覇市伝統工芸館跡利用については、自衛隊への貸与など自衛隊の使用を検討する以前に、公共施設として地域や市民に提供するための検討はなされたのか、答弁を求める。

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		4 那覇市の財政状況について	(2) 那覇市は自衛隊の使用について申し入れているが、自衛隊は各種の武器・火器などを展示する広報センターを予定している。県民の中に自衛隊に関して多様な意見がある中で、自衛隊への提供でなく、公共施設として地域、市民に提供すべきと考えるが、答弁を求める 2004 年度の経常収支比率は幾らか。過去 10 年間の経常収支比率についても答弁を求める。
			【答弁を求める者】 市長、助役、教育長、関係部長

代表質問（２日目） 平成 17 年 9 月 13 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
2	湧 川 朝 涉 (日本共産党)	1 指定管理者 制度について	(1) なぜ、直営ではなく、指定管理者制度に固執するのか、当局の見解を問う (2) 指定管理者の選定の公平・適正をどのように担保するのか (3) 日本共産党の質問に対して、「条例で長や議員本人などの兼業禁止規定を設けるかどうかについて、検討していきたい」と答弁しているが、どのように検討したのか、また庁議で議論されたのか、これらに対する検討委員会等を設置したのか、当局の見解と対応を問う (4) 市長及び助役・収入役そして議員や、その親族（例えば２親等まで）を、指定管理者やそれを選定する者から外すべきと思う。当局の見解を問う
		2 アスベスト について	(1) 那覇市の学校や公共施設（上下水道管を含む）、市内の建築物（民間の住宅を含む）へのアスベストの使用の有無について、市としてどのように認識されているのか、また調査する予定はあるのか、当局の見解と対応を問う (2) 自衛隊基地や那覇軍港への立ち入り調査を要請すべきである。同施設の建設や解体に従事した労働者はどれぐらいいたと推測されるか。当局の見解を問う (3) アスベストの市民相談窓口を早期に設置すべきと思う。見解と対応を問う

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		3 旭橋再開発事業について	(1) なぜ、27 億円もの市民の税金をつぎ込むのか、無駄な公共工事であり、凍結・中止すべきである。当局の見解と対応を問う (2) 残された街区の保留床の処分率は何パーセントか、全体では何パーセントか。これまで「保留床の処分が 100 パーセントでないと補助金を出さない」と答弁してきたが、その見解をほごにしているのではないのか。当局の見解と対応を問う
		4 プールの安全補助員について	(1) 水泳の授業のあり方と指導体制はどうなっていたのか (2) 複数学級で二時間連続の授業の割合は幾らか (3) 学習指導要領の授業時間は幾らで、全て満たしているのか (4) 監視者、実技指導協力は、どのような手続きで配置されているのか (5) 予算を復活し、市として補助員を配置し、責任ある対応を行うべきである。当局の見解と対応を問う
		5 市営住宅の給湯器の修繕と取り替えについて	(1) 修繕と取り替えについて、沖縄ガスからどのような指摘をされたのか。当局の見解と対応を問う (2) 給湯器の修繕と取り替えの取り扱いについて伺う (3) 給湯器の取り替えの対象を拡大すべきである。当局の見解と対応を問う

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		6 市営住宅の 建て替えにつ いて	(1) 予定されている対象と事業規模は幾らか。 沖振法の期間はいつまでか (2) 高率補助とそうでない場合の、市の負担額 は幾らでその差額は総額幾らか (3) 建て替えは、全て地元企業優先、分離分割 発注で行うべき。当局の見解と対応を問う
			【答弁を求める者】 市長、助役、教育長、消防長、関係部長

代表質問（２日目） 平成 17 年 9 月 13 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
3	多和田 栄子 (社 会 連 合)	1 児童福祉行政について	(1) 次世代育成支援計画の中で、施設整備計画として、認可保育園の増設、子育て支援センターの増設等が数値目標としてあげられている。その具体策について伺う (2) 育児支援家庭訪問事業の状況と成果について伺う (3) 待機児童について、対応策を伺う
		2 教育行政について	二学期制導入について (1) 「ゆとり教育」の見直しとして導入されているが、児童生徒、保護者、教師の声はどのようなのか伺う (2) 平成 18 年度から全面実施すると聞いている。モデル校の教育効果（メリット）、課題（デメリット）をどのように分析しているのか伺う
		3 女性登用について	各種審議会及び係長以上の女性職員の登用状況について伺う
			【答弁を求める者】 市長、助役、教育長、関係部長

代表質問（２日目） 平成 17 年 9 月 13 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
4	唐 真 弘 安 (大志の会)	1 一般行政について	海上自衛隊では、海上自衛隊幹部候補生学校において訓練中の幹部候補生に対し、「遠洋練習航海」に連接するために必要な基礎的事項の修得、初級幹部としての素養の育成、シーマンシップを体得させるとともに、我が国の現状についての理解を深めさせることを目的として「近海練習航海」を毎年実施している 常日ごろ、私達は、「練習艦隊」という呼称を聞く機会は多々あるが、「練習艦隊」とは、「近海練習航海」と「遠洋練習航海」をしている部隊のことである ところで、毎年「近海練習航海」の日程で、練習艦隊が４日間、中城湾港に寄港しているが、その規模は練習艦４隻に乗員総数 1,000 人である 本員は、その練習艦隊の寄港による経済効果や街の活性化、また、特に災害である地震、津波が那覇市に発生した時には、本土からの救援は、ほとんど海路による物資輸送、負傷者の救助に尽きると理解した時、艦艇の那覇港や軍港への慣熟及び地元との連携要領を確立しておくことが肝要であると思う 是が非でも関係機関に働きかけた上で、海上自衛隊練習艦隊の本市への寄港実現を見たいと本員は訴えるが、市長の答弁を願う
		2 住宅問題について	郵住協団地入居者への陳情回答について再度伺う
		3 交通問題について	新都心、東江めがね店前の歩道橋問題について
			【答弁を求める者】 市長、関係部長

代表質問（２日目） 平成 17 年 9 月 13 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
5	上 里 直 司 (民主クラブ)	1 那覇市の庁舎移転について	(1) 翁長市長は、新都心おもろまち地区に計画されている庁舎移転計画の実施が相当厳しくなっていると発言している。市長は、移転計画を断念するのか、続行するのか見解を問う (2) いずれの判断にせよ、今後の本庁舎や新都心銘苅庁舎の利用のあり方が問われる。そこで以下のことを伺う ① 過去５年間、本庁舎において庁舎壁面のコンクリート剥離・落下の件数とその状況について問う ② コンクリート剥離・落下の防止への対応策について伺う ③ 新都心銘苅庁舎の利用計画と駐車場等のインフラ整備について問う
		2 アスベスト問題について	(1) 本市の施設において、アスベスト含有調査は実施されたのか。また、調査はどのような方法で実施されたのか 調査の結果を踏まえて、新たな対応策を策定したのかを問う (2) 本市において、アスベスト被害への相談窓口の設置や健康診断を、どのような形で支援をしていくのか問う
		3 I T創造館について	現体制から指定管理者制度へ移行したときのメリット、デメリットをそれぞれ問う
			【答弁を求める者】 市長、関係部長

代表質問（２日目） 平成 17 年 9 月 13 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
6	座 覇 政 為 (自民クラブ)	1 石綿（アスベスト）問題について 2 P C B（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物について	(1) アスベスト問題について、那覇市の管理する公共施設はどうなっているか。そして対策済みはいくつあり、未処理分は今後どうするのか伺う (2) 学校給食で使う調理釜は、アスベストが使用されていたと北海道の滝川市は発表しているが、那覇市はどうか (3) 自転車（子供用）のブレーキ部分に、アスベストが使用されているとブリヂストンサイクルが発表しているが、那覇市にはどのように流通しているか、調査したか。その結果はどうか (4) 南部(糸満市)の小学校でアスベストを使用していた教室を取り崩し、空気中の濃度危険性について、県環境保全課は問題ないと発表したか、解体の際の基準はどうなっているか。その経過と発表内容について説明せよ (1) ポリ塩化ビフェニル(P C B)は、絶縁性、不燃性などの特性により、トランス・コンデンサーといった電気機器をはじめ幅広い用途に使用されていたが、社会問題化し、昭和 47 年以降、その製造は禁止されている ところが、すでに製造された P C B は、いろんな事情で約 30 年の長期にわたり、ほとんどその処理が行われず、結果として保管が続いているが、那覇市はどうか 法令に基づく国、県とはどう調整し、民間に対しては、どういう指導をしてきたか。那覇市の考え方について伺う (2) 那覇市の P C B 廃棄物は総量でいくらあり、どこに管理しているか。そして、処理費は、これまで幾ら予算計上してきたか。また今後、処理費用は幾ら必要とみているか説明せよ 【答弁を求める者】 市長、助役、教育長、関係部長

代表質問（２日目） 平成 17 年 9 月 13 日(火)

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
7	知 念 博 (市民の会)	1 教育行政について	「那覇市立学校適正配置基本方針」について、伺う (1) 本市における小規模の学校名を挙げよ。今後、小規模校となる可能性のある学校はどこか これらの小規模校の適正配置について、隣接校との通学区域の変更で対応できそうな学校はどこか。また、それだけでは適正規模が確保できそうもないのはどこか伺う (2) 統合対象校の基準について 1 学級の人数基準を 40 人と算定している。本市における適正規模の学級は 30 人が望ましいが、当面は 35 人を上限とすると言っているにもかかわらず、40 人で算定した理由を述べよ (3) 統合の方法について、原則として、お互いに対等な関係で統合し、新しい名称の新校として設置する。と決めつけているのはなぜか。両校関係者で新名称を含めて検討するのがベターと考えるが見解を伺う (4) 銘苅小は、本年 4 月、17 学級でスタートしたが、5 年後の 22 年には 25 学級の大規模校になると見込まれている。隣の安謝小においても 6 年後には 25 学級の大規模校になると見込まれている。新都心の急激な人口増加に対応し、新小学校の開設が早急に必要と考えられるが、当局の見解を伺う (5) 小規模校のデメリット、人間関係面において「学級配置替えのできない同一集団では、多様な経験を積む機会が少なくなり、社会性の育成には影響が考えられる」とあるが、どのような影響か具体的に述べよ

順位	氏 名 (会 派 名)	発 言 事 項	発 言 要 旨
		2 福祉行政について	(6) 私は、平成 15 年 9 月定例会においても、学校選択制の導入について取り上げたが、今回の基本方針には全く反映されていない。この件について検討されたのかどうか、経緯を詳しく述べよ 地域ふれあいデイサービスについて (1) 現在、何カ所で開設され、自主運営もしている所は何カ所か (2) 1カ所、1日当たりの利用者は何人程か (3) 運営に関する助成金は、どうなっているのか (4) スタッフの看護師、非常勤看護師、レク指導員、有償ボランティアのそれぞれの給与・報酬は幾らなのか伺う
			【答弁を求める者】 市長、助役、教育長、関係部長

